

和名抄に、越前古之乃三知乃久立入信友云、京より越前敦賀郡へ行道に、道の口といふ地あり、この國の古名にかなへりといへり、名義は日本紀纂疏に、彼地有坂、名曰角鹿ツカ行人必踰此坂、入越絶故名曰越也とあるは非なり、略中されど越前、越中、越後、加賀、能登、出羽等おしなべていにしへの越國にて、陸奥と一つ々きの國なり、類聚三代格に、此國面帶大海、遠向異方云々とあり、日本書紀

垂仁天皇紀、額有角人、乘一船泊越國、筭飯浦云々、問之曰、何國人也、對曰、意富加羅國王之子、名都努我阿羅斯等亦名曰于斯岐阿利叱智干岐云々などあり、か、れば外國人來り、調貢など運び置しゆゑにやししか號け、む、外國をさして諸越モロコシなどいへるを思へば、調貢の品々を越の國なるべし、

略中、又は古事記に、於高志前之角鹿造假宮而坐云々、其御祖息長帶日賣命、釀待酒以獻爾其御祖御歌、許能美岐波和賀美岐那良受久志能加美登、許余邇伊麻須伊波多々須須久那美加微能加牟苦岐云々、日本書紀崇神天皇卷に、天皇以大田々根子令祭大神、是日活日自舉神酒、獻天皇、仍歌之曰、許能瀨枳破和餓瀨枳那羅孺椰磨等那殊、於朋望能農之能介瀨之瀨枳云々とあれば、久志は酒をいへるなり、また記の應神天皇卷の大御歌に、須々許理賀迦美斯美岐爾和禮惠比邇祁理許登那具志爾和禮惠比爾祁理とあるなどを思へば、久志の國なるべきよし論ひ給へり、猶下の能登國の條にいへるをてらしあはせみよ、

〔日本書紀神代講述抄五〕元子時寬文壬子八月九日、勢州山田の旅宿にして、北越の山本廣足謹書、

〔大江俊光記〕貞享五年元三月朔日、今朝山本勸齋足越前を伊勢へ被參ニ付被尋對顔、
〔倭訓栞前編九〕こし、越の國は、つのがの坂を越る以北なれば、しかいふとの古説也、今前後に分

てり、或は越後國古志郡よりや出にけん

〔日本書紀神代〕伊弉諾尊、伊弉册尊、略中、欲共爲夫婦、産生洲國、略中、廼生大日本、日本此云耶麻豐秋

津洲、次生伊豫二名洲、次生筑紫洲、次雙生隱岐洲、與佐度洲、略中、次生越洲、次生大洲、次生吉備子洲

越國